

## ミッションクリティカルなPTSの基盤に Egenera BladeFrame® を採用

大和証券は、2008年8月から提供を開始しているPTS（私設取引システム：Proprietary Trading System）サービスを支える基盤にイージェネラの「Egenera BladeFrame®（以下、BladeFrame®）」を採用した。同社では、以前から社内情報系システムをBladeFrame®に統合し、耐障害性のメリットを体感し、さらに安定稼働とシステム運用コスト削減という実績をあげていたことから、信頼性の高いシステム基盤としてBladeFrame®を選定した。

### 柔軟なシステム基盤により アプリケーションを迅速に展開

大和証券は、証券業務を実施する基幹システムと、一連のフローの中で基幹システムと連動する社内情報系システムをメインフレームで管理してきた。ところが、複雑な処理のほとんどをメインフレームで実施してきたため、頻繁に書き換えられるプログラムは複雑化の一途を辿り、システムメンテナンスに費やす時間とコストが肥大化し、システム管理コストが膨張し続けていた。同社では、安定性というメインフレームの良さは評価しつつも、それと並行して運用する次世代型のシステムとして、新たに提供する商品やサービスを迅速に展開できる高信頼性・低コストのシステム基盤の構築を検討することになった。

大和証券 システム企画部長 高橋 憲昭氏は、「システムの合理化を進めていたわれわれは、アプリケーションを迅速に展開できる信頼性が高く柔軟なシステム基盤を必要としていました。というのも、今までのやり方では、新しい商品やサービスを提供するたびに基盤設計やテストの必要があり、アプリケーションの展開が迅速にできなかったからです」と話している。

### オープンで信頼性の高い BladeFrame で、 システム運用コストを大幅に削減

当時、ブレードシステムはミッションクリティカルなシステム分野ではほとんど使われていなかった。実際、同社はさまざまなブレードシステムを比較・検討したが、信頼性が高く、実用に耐えられそうな製品となると BladeFrame® 以外には見つからなかったという。

システム企画部 情報システム一課長 上席次長 川岸 伸二氏は、「さまざまなベンダーと仮想化技術の発展について議論を交わし、ベンダーの将来性を入念に見極め、ストレージをはじめとした周辺機器との互換性などを徹底的に調査しました。結果、他のブレードシステムとは一線を画するイージェネラの BladeFrame® ならミッションクリティカルな業務を支えるシステム基盤として十分な役割を果たしてくれると確信できました」と当時を振り返る。

また、BladeFrame®はサーバの用途を限定しないことも魅力

### 企業 PROFILE

**大和証券**  
Daiwa Securities

大和証券株式会社

上場持ち株式会社である大和証券グループ本社が 100% 出資しているリテール証券会社。全国に広がる支店を拠点に、地域に根ざした個人投資家対象の営業を強化しつつ、地域の法人のお客様に対しても、営業活動を積極的に展開している。平成 21 年 4 月に 3 カ年の「中期経営計画」（平成 21 年 4 月から平成 24 年 3 月）を策定し、3 年後の目指す姿として「プロフェッショナリズムとオリジナリティに磨きかけた魅力あふれる証券会社」を掲げている。

[www.daiwa.co.jp/](http://www.daiwa.co.jp/)

システム企画部長  
高橋 憲昭氏



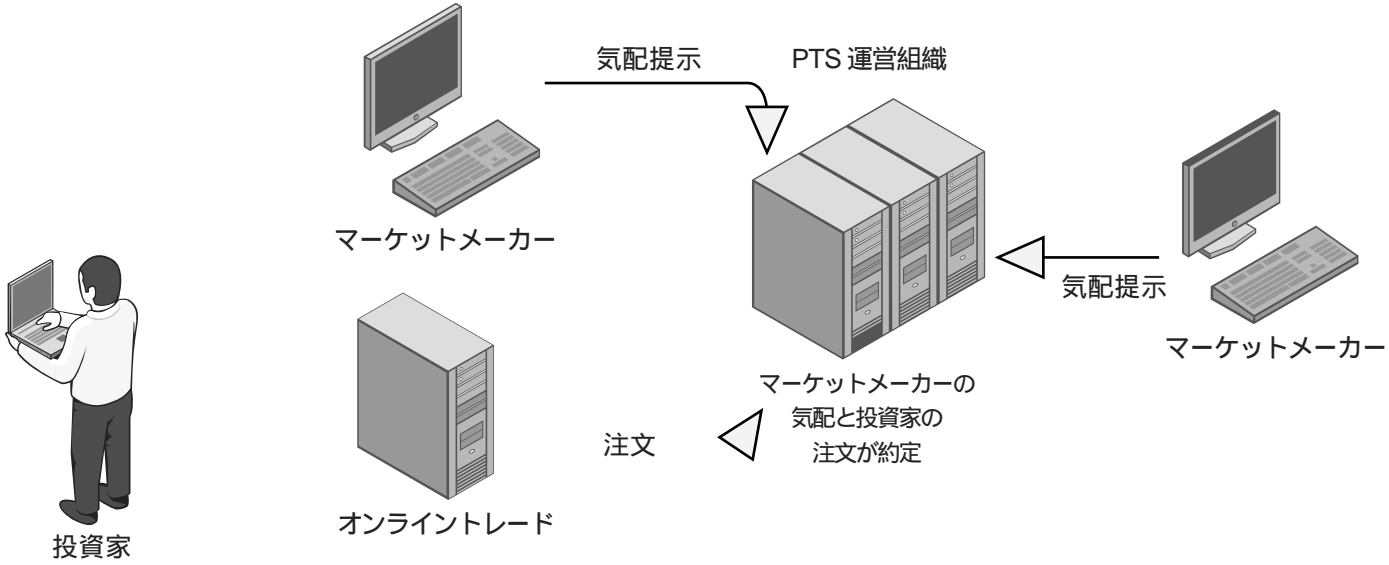
システム企画部  
情報システム一課長  
上席次長  
川岸 伸二氏

システム企画部  
情報システム一課  
次長  
石本 直毅氏



システム企画部  
情報システム二課  
佐藤 大和氏

大和証券  
Daiva Securities



The  
Data Center  
Virtualization  
Company